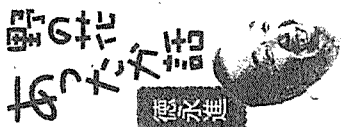
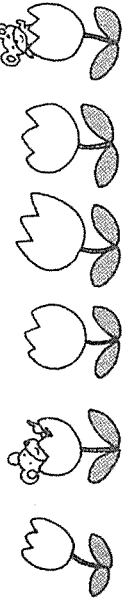


最近の

新聞記事より



野の花 あったか話

徳永進

新型コロナウイルスの流行は終焉せず、学校の卒業式も様変わり。変わったといえは、ちよと変わった一人だけの卒業式があった。校長が卒業証書を渡す、高校3年生の女子生徒に手渡した。教頭、担任も同席。女子生徒は泣く。卒業式の会場は学校の講堂ではなく、生徒の家の居間。そこには介護用ベッドがあり、62歳の母が横たわっていた。

母はがんの末期。がんによる難治のリンパ浮腫、神経因性疼痛があった。治療は難航。母は耐えて耐え抜いてきた。歳月経ち、食べれず、立てなくなった。今後の対応について話し合ねばならない時を迎えた。本人の気持ち、本人には言えない家族の気持ちを聞かねばならない。2月8日、診療所の図書室に集まる。もらいカンパフランスを開く。

母のいる居間で小さな卒業式

「妹も私も学校を休んでます。明るいふりしてるけど悲しい」「私だって寂しい。家では泣けない、ここと涙が出るよ」と。覚悟はしてます。5年間一緒にやってきました。家内も察していると思う。鎮静剤のこと、ちよと待つて下さい」「私から入不意校を何やかんやで勝手放題。母には迷惑の掛けた。罪滅ぼして、母を家で看ます」

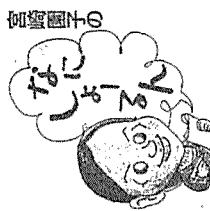
その高校の恒例の卒業式は、3月2日。そこまでは生きられない。図書室での話し合いを終え、21日は学校と交渉し、1週間後の3月15日の土曜の午後、その手作り卒業式を企画した。学校も積極的に同意。

女子生徒は、卒業証書と共に渡されたピンクのチェーリングの束を、ベッドの母へ渡した。母は会が終わりにゆくとくると述べた。「この日が、迎えられ、感謝、します。ありがとうございます、ごさ、います」

2日後の夜の8時、その人は家族全員に手を取られ、子供らの涙の中で旅立ちされた。

野の花診療所撮影

不自由の中東北に思いを



高橋園子の

広島出身の映画監督、諏訪敦彦さんの作品「風の電話」が、ベルリン国際映画祭で特別表彰を受けた。

東日本大震災で被災した、岩手県大槌町に実在する電話ボックスをモチーフにした映画。震災で両親と弟を失い、広島の親類に育てられた高校生が、故郷大槌にある電話線につながっていない電話にたどりつくまでの人々との交流を描いたロードムービーだ。

撮影は、西日本豪雨から9カ月後の呉市で始まった。監督の故郷が広島だといふことに加え、「日本つて本気で災害の国なんだ」と実感したことが理由だと取材時、語っていた。

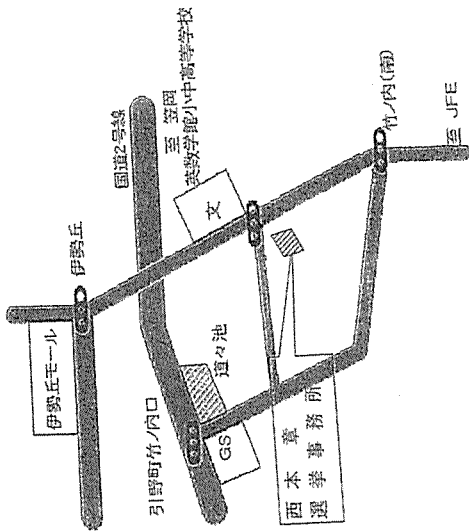
あの大槌から、まもなく9年。当時、私も大槌にいった。目をこらしても、すくとも、現実とは思えない風情が広がり、自分の無力さのみ込まれそうになった。なのに今、毎日欠かさず思いをはせることになった自分がある。私の中で、着実に始まっている「風化」。

だからこそ、せめて一年度のその目ごらひは、と振り返ってきた。だが、今年、は、政府主催の追悼式典

で新型コロナウイルスの影響で中止になった。唐突な休校、催事の自粛、行動の制限。先日取材した小学生が「ヒマすぎ」とぼやいた。ふと、9年前に避難所となった大槌の小学校で聞いた11歳の女の子の言葉を思い出した。「自由がほしい。ヒマと自由は違う。やりたいことができるのが自由で、やることのないのがヒマ。だから、早く自由がほしい」。ふとちよんと呼ばれていた彼女も、もう大人になるころ。ほしかった自由を手に入れたのだろうか。きつとまた。外の者は「あの日」と点で考えるが、「震災」は、線で、面で、今に続いている。私たちが今論じられている風化はいつか終焉する。みな大槌。だけと巨は、東北に思いをはせよう。

西本草 出発式のご案内

日時 3月29日(日) 9時
場所 西本草選挙事務所



◆3月4日、予算特別委員会 西本草が出した要望・意見が記事になりました。

福山市は2020年度から、平日に設けている外国人向けの無料相談窓口を第1、3日曜にも開く方針を決めた。技能実習生や留学生にとっては、講習や授業と重なる平日より週末の方が利用しやすいとの声があったため拡充する。4月19日から始める予定。

日曜の窓口は、J福山駅北側の市民参画センター(本町)に設ける。相談員として日本語や

中国語ができる通訳の計3人が対面式で相談に応じる。市は相談員の謝礼などとして約2万円を関係中の市議会定例会に提案している。20年度の一般会計当初予算案に盛り込んだ。

市は本庁と松永支所(松永)で平日、相談を続けている。近年の相談件数は3200件前後で推移。多くは来住者で、技能実習生や留学生の相談はほとんどなかったという。実習生の受け入れに関

外国人相談窓口日曜日も

福山市 第1・3 来月19日から

福山市は2020年度から、平日に設けている外国人向けの無料相談窓口を第1、3日曜にも開く方針を決めた。技能実習生や留学生にとっては、講習や授業と重なる平日より週末の方が利用しやすいとの声があったため拡充する。4月19日から始める予定。

日曜の窓口は、J福山駅北側の市民参画センター(本町)に設ける。相談員として日本語や中国語ができる通訳の計3人が対面式で相談に応じる。市は相談員の謝礼などとして約2万円を関係中の市議会定例会に提案している。20年度の一般会計当初予算案に盛り込んだ。

市は本庁と松永支所(松永)で平日、相談を続けている。近年の相談件数は3200件前後で推移。多くは来住者で、技能実習生や留学生の相談はほとんどなかったという。実習生の受け入れに関

わる監理団体などからは休日の窓口の設置を求める声が高められていた。

市によると、市在住の外国人は1万447人(2月末時点)。15年3月末時点の6465人から約1.6倍増えた。実習生が4101人と全体の約4割を占め、永住者2069人、留学生1642人などとなっている。

岡崎保健市民相談課長は「気軽に相談できる機会を充実させ、外国人も暮らしやすい町にしたい」としている。

(西戸隆彦)

外国人市民の個室相談OK

2月22日 中国

福山市本庁と松永支所に設置

翻訳アプリ端末も導入

福山市は21日、外国六市民向けに個室の相談窓口を市役所本庁(東桜町)と松永支所(松永町)に設けた。従来はカウンターで相談を受け付けていたが、着るいて利用できる個室に拡張。多言語に対応できる翻訳アプリの端末も導入した。

本庁舎は、南北口付近に2ブース設け、平日午前8時半から午後5時15分まで開く。ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語は相談員が応じ、その他の言語

はタブレット端末の翻訳アプリ(3言語対応)を使う。松永支所は1階に1ブース、平日午前9時から午後5時15分まで。ポルトガル語、英語は相談員が応じ、その他の言語はタブレット端末(同)で対応する。

市市民相談課の岡崎保健課長は「プライベートの空間で悩める相談を話しやすい工夫した。どんなことでも気軽に相談に来てほしい」と話している。

(湯浅崇彦)